

東日本旅客鉄道労働組合

東京都渋谷区代々木2丁目2番6号

JR新宿ビル13F 〒151-8512

Tel. 03-3375-5740 (代)

発行責任者 大熊勝明

# JR東労組

# 本部OB会

# ニュース

No. 157 2011年5月 発行

## 被災地・仙台の荒浜地区を見舞う！

### 《本部OB会被災地調査・激励行動／報告》

四月十五日午前、本部OB会は「東日本大震災」で大きな被害を受けた仙台市若林区の被災地を調査するために、車で東北道を通ってJR東労組仙台地本を訪れました。調査には、大熊会長・伊藤事務局長のほか、東京地本のOB担当・成田特執も参加しました。

#### 荒浜地区は、ガレキの平地

一行は仙台地本OB会の林事務局長と千田事務局長の案内で、津波により自宅流失の被害に遭った佐藤初男さん(〇〇君)が住んでいた仙台市若林区の荒浜地区一帯を調査しました。

その大半が根こそぎ引き抜かれ、内陸部にまで荒波が「凶器」となつて押し寄せており、辺り一面は全壊が破壊されて、家屋の残骸や材木などのガレキで埋め尽くされた平地に変貌してありました。

#### 命を救った小学校の校舎

「ここに二〇数年住んでいたんだよ」と、ボツリと話す佐藤さんの目の前には、玄関口に続く敷石とコンクリートの土台だけが残っています。



命を救った小学校の校舎

また、流失した自宅付近で捜し物をしていた近所の婦人は「ここがこんなに広い平地とは知らなかった」と、遠くまで見渡せるようになった被災地に、ボーツと立尽す姿に一行は胸を締めつけられる思いでした。

#### 体育館が避難所に

また佐藤さんは、津波の水がまだ引かない中、退職後の地域活動の経験を活かし、避難者を小学校の屋上から安全な場所へ移動させる際、リーダーの役目を果たす活躍をしました。



佐藤さんが避難している若林体育館には、三三〇名の地域の人が避難生活をしていました。ダンボールで等分に仕切られた場所が「自宅」で重ねて置いて

ある毛布や紙袋が、長く不自由な避難所生活を物語っていました。それでも明るく気丈夫に振る舞って対応してくれた奥さんにはホッとしました。

#### 一日も早く温かい手を

午後から地本事務所に戻り、五名のOB会員から話を聞きました。その中で「OB会員は助かったが、OB会加入を拒んだ人が何人か亡くなった」「家屋が流失してしまった人には一日も早く支援を」という声がありました。

本部OB会は、今回の調査と激励行動で「被災地に立ち、自分の目で見、声を聞く」ことの大切さを改めて実感し、今後の支援活動に活かしていく気持ちを再度固めました。

#### OB声の広場

東日本大震災

#### 被災地の激励行動に参加して

◇一ヶ月後に告示を控えた盛岡市議選の組織内候補「宮川ひさし」(前盛岡地本委員長)の必勝を期し、当選に向けた取り組みを強化していた矢先の三月十一日、東日本大震災が発生して、選挙は法令に従い延期となりました。

◇東日本大震災発生後、盛岡地本の現役員を中心に各支部・分会の役員が被災されたOB会員の安全確認と激励行動を取り組み、浸水した家屋の清掃・ガレキの撤去等のボランティア活動も展開して頂きました。盛岡地本OB会は第一回(4・11)気仙沼・陸奥高田地区、第二回(4・13)宮古・山田地区を中心に見舞・激励行動を展開して頂きました。

◇私は四月十三日、三陸沿岸の宮古市・山田町西地区OB会員の被災状況の調査も兼ね激励行動に参加しました。発生から一ヶ月後の現場に立ち、家屋の流失・損傷により、町全体が焦土化して瓦礫が山となり、異様な風景に変わり果てた街の姿にただ呆然とするばかりでした。また今なお電気・水道・ガスがない地区もあり、在宅避難も含め避難所生活を送る被災者の皆様に、ただ「苦しいけれど、頑張っている」と願うのが精一杯でした。

◇被災されたOB会員の自宅訪問をし、家族の安全・発生時の状況・生活環境など、仲間の無事を確認し、再会することが出来ました。今も瓦礫が散在する場所で肉親を捜し続ける仲間を探すために、親戚・避難場所・流失して瓦礫の山と化した地区を捜し続けましたが、再会出来なかった仲間、浸水で自宅に流れ込んだ残骸整理に追われる仲間や家屋の改修準備に余念のない仲間、さらに避難場所内で町内役員としてボランティアをしている仲間など、様々でした。

◇被災された仲間から、青年部員が自宅に来て、床下のヘドロ・漂流物・畳などの撤去、家屋の掃除まで手伝ってくれたことを「本当に有り難い」と涙ながらに語っていたことが印象的でした。

◇被災された仲間の極一部ですが、7名の会員と再会できました。大震災と向き合い、復興に向けて日夜奮闘されているのが仲間達から、逆に元気を貰いながら帰途に着きました。三陸海岸の青い海は、一ヶ月前の大震災をよそに何事も無かったかのように夕日に照らされ「キラキラ」と輝いています。

盛岡地本OB会(T・H)

体験記

東日本大震災の脅威

防犯見回り中、大地震に遭遇

平成23年3月11日(金) 14時46分に発生した東日本大震災。当時、私は小学生の下校時に合わせ、防犯を目的とした学校ボランティア巡視・見回り中で、2人組3ペアにより方面別の行動をとっていました。

あと10分ほどで終了という小学校近くに達していた時、大地震が発生しました。かつて経験のない大地震は、何かに掴まらないと立っていることが出来ず、堤防の手すりに手を掛け、止むのを待ちました。

家屋内にいた人は悲鳴をあげて外へ飛び出し、ガラスが割れ、地割れがするなど、激しい上下の揺れが2分間も続いたのだろうか。やがて止むのを待って互いに自宅へ直行、津波を直感し、小学校を目指しました。訓練等でも小学校が指定されており、非常時での持出し品と徒歩の集合は日頃のマニュアルでした。

津波警報で、避難の車、大渋滞

防災無線による津波警報とサイレンの発報が繰り返して送信されていました。

小学校に着くと、車は渋滞し、騒然となっていました。海から小学校まではおよそ400m余と近いので、少しでも西方向へ離れることが最善でしたが、渋滞に加えて信号機が停電で消灯し、最悪の条件が重なっていました。

そこで小学校に駐車を促すため校門前で誘導と整理が始まりました。

仙豆部OB会 副会長 佐藤初男

30台ほどが駐車した頃、消防車が海岸方向から走行して来て、津波の知らせと「至急校舎内に入るよう」指示されました。私も土足のまま四階の教室へ走り込み、間もなく津波の襲来に遭遇しました。

目に焼きついた大津波の脅威

波は7~8mの高さを保ったまま家々を破壊し、松の木や電柱を容赦なくなぎ倒しながら迫り、悪夢が現実となり、教室内は悲鳴が上がり、涙ぐむ人、祈る人など、騒然となり、大津波の脅威と恐怖の現実を目にとどめました。



大津波で家屋流出してしまった佐藤さんの自宅跡

下校時の子供達は、先生方の判断で校舎内に戻るよう指導があり、二百数十人の避難者と共に私達は小学校で夜を明かしましたが、遠くでは火災が発生していたり、海水が引かずに孤立し、子供達と高齢者がへりで電子目自衛隊



基地へ移送されました。私達は翌日の夕刻に浅瀬を確認しながら徒歩による安全地帯への

避難を始め、4km西方の七郷小学校に收容してもらいました。その後の余震等により、室内の危険箇所が見つかり、学校業務等の関係などから、3月27日、若林体育館に移動し、現在330名余の方々と共同避難生活をしております。現在も不明者が数多くおり、津波にさらわれた元の居住地へ戻りたい人はなく、厳しい生活を覚悟しながら、多くの支援に応えようと考えています。

都心にこだまする「脱原発」の声!

市民団体に続き、「9条連」も東電本社に向け、抗議のデモ行進

4月24日午後、快晴の東京都港区・芝公園23号地に4,000名を超える市民や労働者が「チェルノブイリ事故から25年、くり返すな!原発震災、つくろう!脱原発社会」の集会に集まりました。



脱原発をめざす集会に集まった労働者・市民たち

この集会は「原発を止めよう!東京ネットワーク」が主催し、多くの市民団体が参加する中、関東各地の「9条連」で活動している多くのOB会の仲間たちも参加しました。

集会では、福島原発・地元の被災地から参加した女性の「涙の訴え」やチェルノブイリ原発事故で被災した住民のために長年にわたり闘い続けているパーベル・ヴドヴィチェンコ氏からの報告もあり、会場は「原発に頼らない社会をつくろう」と盛り上がりました。

集会後は、芝公園から新橋駅を經由して東京電力本社に向けてデモ行進しました。中高年層の参加者が多く、中、「9条連」から参加した若い人のシュプレヒコールの声が都心のビルの谷間にこだましました。

私のエルダー職場 職場紹介

エルダー制度・第一期生を経験して  
盛岡地本・青森車両センターOB 川村順一

いつからいつまで

二〇一〇年十二月一日から青森鉄道(株)青森運輸管理所のお世話になることになりました。その前は、青森県庁に出向していました。

仕事の内容は

運転士の運用と電車検修業務の計画・運用管理する仕事をしています。

仕事での苦労とか、戸惑ったことは

青森県庁時代から、そういう事柄を計画・立案してきましたので、これで良かったのかという思いはありますが、青森へ目時間が全線開業しましたので、前向きに考えて取り組んでいきます。

仕事の変化で大変ですね

今までも計画立案をやってきましたので、ある意味、上から目線みたいなところがありましたが、検修業務が完全に自前で実施となりますので、神経を使っています。

今、一番気をつけていることは

自分を含めた、社員の健康管理と作業環境をどのように構築していくかです。

青森運輸管理所の特徴は何ですか

十二月四日に設立されたばかりの職場ですので、これからの取り組みとなりますが、チームワークの良い明るい職場にしたいと思っています。

後に続く後輩に何かアドバイスは

まだまだ若者の気概をもって、出向に来て欲しいです。職場の当直にエルダー社員が一人いますが、他の出向者に負けないで頑張ってくださいるので頼もしい限りです。

ありがとうございました。最後に一言を

安全・安定輸送で、青い森鉄道を県民の足として発展させていきます。